

令和 6 年度碧南ふれあい作業所指定管理者審査委員会次第

日時 令和 6 年 8 月 5 日 (月)

午前 10 時から午前 11 時 30 分まで

場所 碧南市役所 2 階 会議室 3

1 あいさつ

2 議題

(1) 令和 5 年度事業報告及び収支決算について

(2) 令和 6 年度事業計画及び収支予算について

3 その他

令和 7 年度以降の碧南ふれあい作業所指定管理者の任意指定について

碧南ふれあい作業所指定管理者審査委員会委員

	区分	選出団体名等	氏名	役職名
1	市職員	碧南市副市長	山本 政裕	委員長
2	学識経験を有する者 (市長が必要と認める者)	東海税理士会刈谷支部支部長	伴野 義雄	
3		日本福祉大学教授	青木 聖久	
4	各種団体を代表する者 (市民の代表)	碧南市民生委員児童委員協議会代表	古久根 久美子	
5		NPO法人ゆるりん理事長	磯貝 厚子	
6	市職員	碧南市経営企画課長	山本 貴史	

任期：令和5年7月1日から令和8年6月30日まで

指定管理者

1	碧南ふれあい作業所	碧南ふれあい作業所所長	渡邊 明香
2		社会福祉法人WH J 理事長	竹内 涼
3		社会福祉法人WH J 法人本部経理部長	熊本 直孝

事務局

1	市職員	福祉こども部長	深津 広明
2		福祉課長	鈴木 善三
3		福祉課社会福祉係長	山本 昌弘

令和5年度 碧南ふれあい作業所事業報告書

I. 施設概要 利用実績

施設種別	生活介護・日中一時
事業所番号	2313200020
所在地	愛知県碧南市中山町1-16-1
事業開始日	平成8年7月1日
障害種別	指定なし
定員	生活介護 60名 日中一時 70名
開所日/時間	月曜日～金曜日 9:00～16:00

A. 登録市町村 碧南市

B. 利用実績

	生活介護	日中一時	事業活動収入計
			職員数合計
利用定員	60人	70人	
利用者延数	13258人	609人	
1日平均利用者数	54人	3人	
稼働率、稼働指數	90.2%	4.9%	
稼働日数	245日	179日	
単価（一人一日当たり）	7,789	5,997	
介護給付費等収入	103,265,725	3,652,000	106,917,725
職員数（常勤換算）	11.3		11.3

II. 事業計画・目標の達成状況

A. 運営目標・理念

「作業に特化した生活介護」「高齢利用者の活躍の場を」

生活介護⇒

・紙書きを通じて、わらふえすでは、地域の方に紙書き体験を行い利用者と地域の方と交流を深めた。また、ひいらぎ養護へは、出前授業の一環で2か月間にかけて生徒に紙書きを教えに行き体験してもらった。今年度は、紙書きの体験内容を増やし、紙書きの楽しさをより伝える事が出来た。利用者も生徒に紙書きを教えることで、喜びや達成感・充実感を体験してもらえた。

花苗を通じては、市内の保育園や幼稚園、中学校へ野菜や花苗をプレゼントしたり、利用者が園児の方や中学生に教えながら花苗の植え付け体験を行った。次年度も、市内の学校等とのつながりを強化し、幼少期から障害を持った方と接する場を増やし、自分と違う特徴がある人やハンディを持った方がいる事をあたりまえの光景として受け入れ、助け合えるように機会を増やしていきたい。

・高齢プログラムは、職員の応募からピース班と命名され、月4回（週1回）のペースで、喫茶活動・工作・散歩・買い物・お菓子作り・体操などのプログラムを行い、お弁当をもってピクニックへ出掛けたりもしました。

また、それ以外の時間は、長年かかわってきた作業所の仕事を本人のペースで行ってもらった。

・老朽化に伴い、食堂・3階のエアコンの取替工事等、施設の修繕を行った。次年度はバスの購入や食洗器の購入も控えている。

日中一時支援⇒

・コロナも落ち着きを見せ、数年ぶりに外出企画も再開し、散歩や調理実習、食べ放題や季節のイベントを企画し、沢山の方に利用して頂けた。

児童の受け入れも春休み・夏休み・冬休みに行った。今後は、若い利用者を増やす為にも、児童の受け入れに作業所の良さを売り込んで行く必要がある。

B. 事業計画

・生活介護 (定員 60名)

新規利用者 3名を目指す

⇒6月に2名利用者が加わり、12月に1名新たに契約・利用開始する事が出来た。今後も、介護サービスに移行する利用者がいるため、利用者の確保が必要になってくる。

地域交流（紙すき体験：年2回）

⇒わらふえすのワークショップにて紙すき体験を地域の方に向けて行った。また、12月と1月にひいらぎ養護学校の生徒に紙すきを体験してもらう為に利用者と一緒に訪問し、紙すきを通じて交流してきた。今後も、ひいらぎ養護学校との交流は継続しつつ、他の学校とも交流が出来る様につながりを広げていく。

地域交流（花苗を通じ市内幼稚園等と交流を図る）

⇒ことは保育園へ、5月に農園で育てたミニトマトをプレゼントし、9月にはゴーヤの苗を植えに行った。

中央中学校には、8月と10月に花苗を植えに行った。鷺塚幼稚園には、12月にチューリップの球根をプレゼントしに行った。次年度も、市内の幼稚園等とのつながりを強化し、幼少期から障害を持った方と接する場を増やしていく。

高齢班の確立

⇒今年度、職員応募の中から高齢班の名前を決めピース班に決まった。活動は、月4回（週1回）ペースで喫茶活動・工作・散歩・買い物・お菓子作り・体操などのプログラムを行っている。毎月喫茶活動で地域の喫茶店へ行き好きな飲み物を注文して楽しんできた。9月は吉良海岸にピクニックへ出かけ、10月は彼岸花を見に行つた。今後も、ピース班の人数は増加すると予想されるため、健康維持の為の運動プログラムも強化していく必要がある。

チームとしての支援をしていく

⇒職員一同、研修には積極的に参加出来た。会議や朝・帰りの打ち合わせで利用者情報共有はしているが、同一支援が行えている職員と行えていない職員がいた。チームビルディング研修は行う事が出来なかつたので、次年度行っていく。

・日中一時 (定員 70名)

⇒月1回土曜日の余暇支援を行い、数年ぶりに外出企画も再開し、散歩や調理実習、食べ放題や季節のイベントを企画し、沢山の方に利用して頂けた。

児童の受け入れも春休み・夏休み・冬休みに行った。児童受け入れについては、将来生活介護での受け入れを視野に入れ、熟考していく必要がある。

C. 研修計画

・一般職員

専門的な知識・技術向上の研修に参加し、職員本意ではなく利用者目線で支援を行えるようになる。

⇒【外部】：強度行動障害基礎研修・実践研修、サービス管理責任者更新研修

【内部】：法人全体研修

・リーダー職員

個々の職員をチームとしてまとめ、人材育成を意識できるようになる。

⇒【外部】：権利擁護研修、虐待防止研修、困難事例対応研修、ハラスメント研修、メンタルヘルス研修
研修委員の為の研修

【内部】：志賀道場(次期リーダー)

III. 対処すべき課題

・本人・家族の高齢化が著しく、ここ数年の間に家庭事情による退所が相次いだ。本人の体力の問題もあるが、親が高齢になり本人のケアができなくなつたことで、今後の話し合いをすることが難しくなってきている。作業所は50代以上利用者の方が約半数を占めているため今後もこのような状況が続くと考えられる。家庭力が低下してきた時に作業所としてどのような支援をしていくのか、またどのように他のサービスに繋げていくのか、職員も意識しながら支援をしていく必要がある。そのため事業所としては高齢の利用者の方が安全に、やりがい・生きがいを持って通えるためのプログラムの構築が求められている。

・利用者の人数減により収入も減少してきている。相談支援事業所、特別支援学校と連携し、新規利用者を確保する必要がある。

・新規利用者の獲得

⇒令和6年度中に介護保険に移行する方が2名いる。来年度卒業生を含め、新規利用者3名を目指す。卒業生はもちろん、地域で行き場のない方々を受け入れられるような体制を作り、相談支援事業所や特別支援学校と連携を図っていく。

・地域交流

⇒紙すきや農園の花苗を通じて幼稚園・保育園、小中学校との交流を図る。障害者のある方の事を知つてもらうために学校に赴き、車椅子体験やうまく自分の思いを言語化できないもどかしさの体験をしてもらう。

イベント等で紙すき体験の場を設ける(年2回)。

⇒花苗という作業所のツールを活用し、市内幼・保育園との交流を図り、幼少期から障害者とふれあえる機会を作る。

⇒令和5年度から「中山福祉の会」の活動に協力をしている。この活動を通じて地域交流の場が増えてきているので、引き続き協力をしていく。

・利用者の健康管理

⇒高齢班だけではなく、全利用者の健康管理を行う為にも月に1回「運動プログラム」を確立し、体力維持の体操等、本人たちにあった活動を考えていく。職員が知識をつける為にも、研修等に参加していく。

・利用者支援の強化

⇒週1回一人以上の利用者のケース検討会議を行い、1年で利用者全員の支援を見つめなおす機

会を作る。個性ある職員が同じ目的を持って支援を行い、チームとしての意識の向上を図ることで、班の職員である前に作業所の職員という立場である事を全職員、再確認していく。支援者のプロとして自覚し、情報を共有し合い、統一した支援を行える環境を目指していく。

・施設整備・修繕

⇒固定資産購入：指定管理期間中にバス・2階エアコンの入れ替えを行ってもらえるよう碧南市と協議していく。

修繕：玄関扉や部屋の扉、エアコンの取り替え等の修繕も碧南市と計画的に協議する。

IV. 利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和5年度	令和4年度
生活介護	延べ人数	1094	1100	1176	1123	1164	1084	1159	1151	1092	1024	1010	1048	13225	14467
	一日平均	54.7	57.9	53.5	53.5	55.4	54.2	58.0	52.3	52.0	53.9	50.5	45.6	53.3	58.6
	営業日数	20	19	22	21	21	20	20	22	21	19	20	23	248	247
	利用率	91.2%	96.5%	89.1%	89.1%	92.4%	90.3%	96.6%	87.2%	86.7%	89.8%	84.2%	75.9%	88.9%	97.6%
日中一時（成人）	延べ人数	39	46	40	44	40	34	45	41	51	61	78	83	602	138
	営業日数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	34
日中一時（児童）	延べ人数				2	2				1		1	1	7	266
	営業日数				2	2				1		1	1	7	110

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1									
サービス管理責任者	2		1		1							
生活支援員	6	9	3	2	3	7				1		-1
看護師		3				3		1				1
調理員		2		1		1						
合計	9	14	5	3	4	11	0	1	0	1	0	0

資 金 収 支 計 算 書
(自) 令和 5年 4月 1日 (至) 令和 6年 3月31日

(単位:円)

勘 定 科 目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事 業	0184 障害福祉サービス等事業収入	112,005,000	113,054,259	△1,049,259
	0185 自立支援給付費収入	105,000,000	103,816,869	1,183,131
	8341 介護給付費収入	105,000,000	103,816,869	1,183,131
	8352 利用者負担金収入	5,000	6,850	△1,850
	8371 特定費用収入	4,400,000	4,650,600	△250,600
	0187 その他の事業収入	2,600,000	4,579,940	△1,979,940
	8381 補助金事業収入(公費)	350,000	927,940	△577,940
	8382 受託事業収入(公費)	2,250,000	3,652,000	△1,402,000
	0195 その他の事業収入	6,200,000	5,995,930	204,070
	0196 その他の事業収入	6,200,000	5,995,930	204,070
	8494 その他の事業収入	6,200,000	5,995,930	204,070
	0199 経常経費寄附金収入	0	50,000	△50,000
	8531 経常経費寄附金収入	0	50,000	△50,000
	0200 受取利息配当金収入	7,000	8,682	△1,682
	8541 受取利息配当金収入	7,000	8,682	△1,682
	0201 その他の収入	1,240,000	1,654,330	△414,330
	8611 受入研修費収入	40,000	27,280	12,720
	8612 利用者等外給食費収入	600,000	703,050	△103,050
	8613 雑収入	600,000	924,000	△324,000
事業活動収入計(1)		119,452,000	120,763,201	△1,311,201
活 動	0129 人件費支出	80,100,000	77,164,915	2,935,085
	7112 職員給料支出	32,500,000	31,631,203	868,797
	7113 職員賞与支出	7,700,000	7,243,762	456,238
	7114 非常勤職員給与支出	28,500,000	27,097,057	1,402,943
	7116 退職給付支出	1,400,000	1,336,400	63,600
	7117 法定福利費支出	10,000,000	9,856,493	143,507
	0130 事業費支出	26,225,000	22,745,851	3,479,149
	7211 給食費支出	5,900,000	5,233,095	666,905
	7215 保健衛生費支出	1,700,000	1,673,749	26,251
	7217 被服費支出	20,000	19,360	640
	7218 教養娯楽費支出	600,000	479,545	120,455
	7219 日用品費支出	160,000	74,247	85,753
	7222 本人支給金支出	5,400,000	5,065,930	334,070
	7223 水道光熱費支出	5,300,000	4,623,174	676,826
	7225 消耗器具備品費支出	1,000,000	525,103	474,897
	7226 保険料支出	75,000	21,848	53,152
	7227 貸借料支出	210,000	173,353	36,647
	7228 教育指導費支出	1,900,000	1,567,342	332,658
	7231 葬祭費支出	350,000	64,000	286,000
	7232 車輌費支出	3,600,000	3,220,125	379,875
	7235 雑支出	10,000	4,980	5,020
	0131 事務費支出	10,220,000	9,505,533	714,467
	7311 福利厚生費支出	300,000	203,116	96,884
	7312 職員被服費支出	20,000	12,660	7,340
	7313 旅費交通費支出	40,000	4,030	35,970
	7314 研修研究費支出	430,000	417,610	12,390
	7315 事務消耗品費支出	830,000	825,777	4,223
	7316 印刷製本費支出	300,000	243,744	56,256
	7319 修繕費支出	1,280,000	1,276,056	3,944
	7321 通信運搬費支出	250,000	193,889	56,111
	7323 広報費支出	30,000	0	30,000
	7324 業務委託費支出	3,700,000	3,575,125	124,875

資 金 収 支 計 算 書

(自) 令和 5年 4月 1日 (至) 令和 6年 3月31日

(単位:円)

勘 定 科 目			予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
7325 手数料支出 7326 保険料支出 7327 貸借料支出 7328 土地・建物賃借料支出 7329 租税公課支出 7331 保守料支出 7332 渉外費支出 7333 諸会費支出 7335 雜支出	110,000	102,695	7,305		
	750,000	662,604	87,396		
	800,000	688,711	111,289		
	120,000	120,000	0		
	160,000	156,300	3,700		
	930,000	923,380	6,620		
	10,000	2,160	7,840		
	150,000	95,300	54,700		
	10,000	2,376	7,624		
	116,545,000	109,416,299	7,128,701		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)			2,907,000	11,346,902	△8,439,902
施設整備等による収支	収入	施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支出	施設整備等支出計(5)	0	0	0
その他の活動による収支	収入	その他の活動収入計(7)	0	0	0
	支出	0160 拠点区分間繰入金支出 7672 拠点区分間繰入金支出	11,000,000 11,000,000	11,000,000 11,000,000	0 0
		その他の活動支出計(8)	11,000,000	11,000,000	0
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△11,000,000	△11,000,000	0
		予備費支出(10)	907,000 0	—	907,000
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			△9,000,000	346,902	△9,346,902
前期末支払資金残高(12)			9,000,000	84,909,104	△75,909,104
当期末支払資金残高(11)+(12)			0	85,256,006	△85,256,006

碧南ふれあい作業所 令和6年度事業計画

I. 基本理念

- ・「作業に特化した生活介護」　社会人として毎日仕事をしながら、生活介護としてのプログラムや楽しみもある施設。仕事と余暇のメリハリのある生活を目指す。
- ・「高齢利用者の活躍の場を」　高齢になってもできる仕事に取り組み、いつまでも社会の一員として働く環境を提供し、人生の生きがいを見つける。

運営方針

- ・作業所は生活介護としては作業量が多いのが特徴であり、利用者の方も「仕事に来ている」という意識の方が多い。また家族も「就職してほしい」という思いから作業所を選択される方が多い。他の生活介護事業所にはない特色であり、ある程度の収入を得られることを強みとして今後も維持・向上を図っていく。また新規利用者にも繋がることもあるので、そこをアピールする機会を設けていく。紙すきや花苗など特化した作業もあり、作業所の強みである生産品を通じて地域交流のきっかけとして作っていく。作業とは別に、月に1度の創作活動や季節にあった行事なども積極的に取り入れ、仕事と余暇のメリハリのある生活を送るように支援していく。令和5年度から「中山福祉の会」の活動に協力してきた。会の人たちや中央中学校の人たちと花苗を通じて交流を図った。この活動を通じて地域交流が増えてきているので引き続き活動に参加していく。
- ・高齢になっても今までの仕事や経験を尊重しながら、本人に合ったものを提供していく。令和5年の途中から碧南市の方針として65歳になると同時に介護保険に移行する事になった。本人の希望で作業所に通いたいと言ってくれる方に対し高齢班を充実させ、引き続き魅力ある作業所としていきたい。
- ・令和6年度に指定管理期間が終了することに伴い、その後の運営について碧南市と協議を進めている。指定管理期間が外れるメリット・デメリットを考慮しながらこの一年は計画的に修繕等を進めていく。

II. 事業計画

令和5年度計画の振り返り

生活介護（定員60名）

① 新規利用者3名を目指す

年度途中で3名の新規利用者と契約する事が出来た。今後も介護保険に移行する方が増える事が見込まれるので次年度も新規利用者の確保を目指して行く。

② 地域交流

わらふえすでは紙すき体験を行い地域の方々との交流を図った。11月よりひいらぎ特別支援学校と共同で授業の一環として作業所の紙漉きを体験してもらっている。毎月、作業所の利用者を講師として紙漉きのやり方を生徒さんへ教えている。

農園の花苗を通じて市内の保育園や児童クラブ、小中学校へ出向き利用者と児童さんの交流を持つことができた（2か月に一回程）。

引き続き作業所の強みを活かし、市内幼稚園・保育園や小中学校と交流を図り、幼少期から

障害者とふれあえる機会を作っていく。

③ 高齢班の確立

今年度からピース班を立ち上げ、本格的に活動を始めた。職員の配置上、週1回のペースで喫茶活動や創作活動等を行った。人数も増えてくると思われるので体操等のプログラムを取り入れていきたい。

④ チームとしての支援をしていく

全職員、リモート研修も増えたため複数回研修に参加する事が出来た。法人内交換研修も参加でき、他事業所を知る機会もあり、自事業所に持ち帰ることができた。

チームビルディング研修は行うことができなかつたため、令和6年度の課題としていく。

○現状分析・課題

生活介護（定員60名）

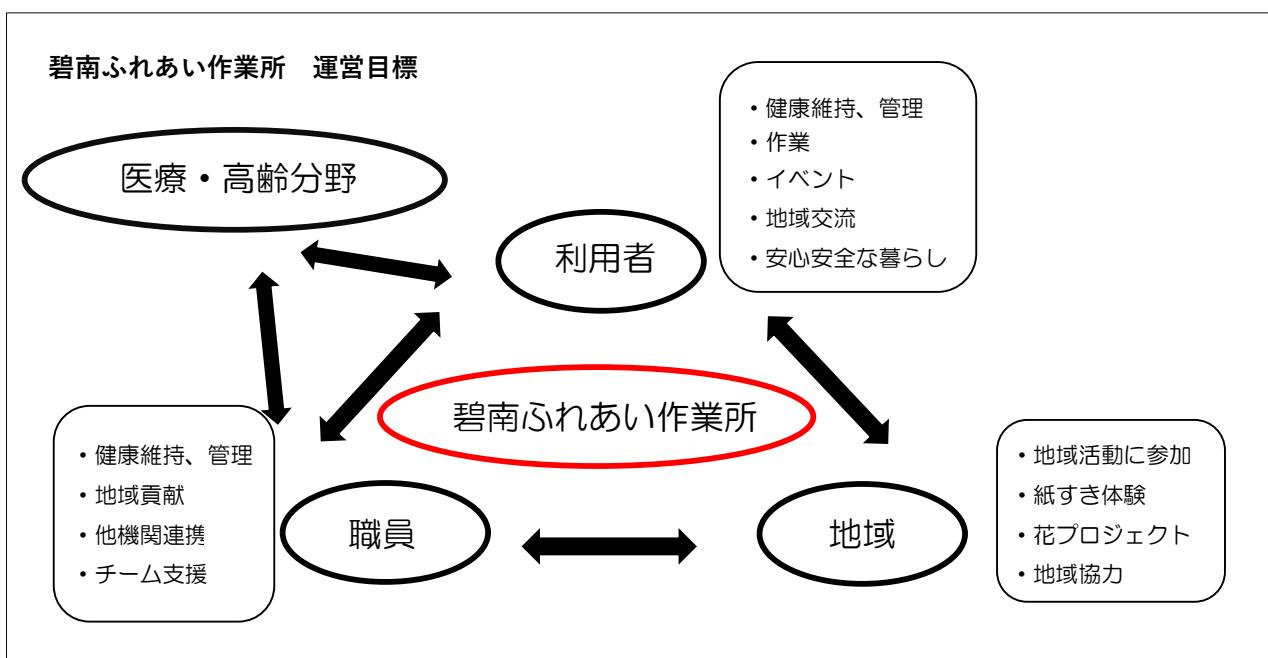
・本人・家族の高齢化が著しく、ここ数年の間に家庭事情による退所が相次いだ。本人の体力の問題もあるが、親が高齢になり本人のケアができなくなったことで、今後の話し合いをすることが難しくなってきている。作業所は50代以上利用者の方が約半数を占めているため今後もこのような状況が続くと考えられる。家庭力が低下してきた時に作業所としてどのような支援をしていくのか、またどのように他のサービスに繋げていくのか、職員も意識しながら支援をしていく必要がある。そのため事業所としては高齢障害の利用者の方が安全に、やりがい・生きがいを持って通えるためのプログラムの構築が求められている。

・利用者の人数減により収入も減少してきている。相談支援事業所、特別支援学校と連携し、新規利用者を確保する必要がある。

日中一時支援事業（定員70名）

・コロナも落ち着き、外の活動が増え安心・安全に考慮しながら取り組むことができた。介護保険に移行した方たちが、日中一時で利用をするようになり利用人数も増えている。

A. 運営目標・事業計画



① 新規利用者 3 名を目指す

- ・令和 6 年度中に介護保険に移行する方が 3 名いる。来年度卒業生を含め、新規利用者 3 名を目指す。卒業生はもちろん、地域で行き場のない方々を受け入れられるような体制を作り、相談支援事業所や特別支援学校と連携を図っていく。

② 地域交流

- ・紙すきや農園の花苗を通じて幼稚園・保育園、小中学校との交流を図る。障害者のある方のことを知ってもらうために学校に赴き、車椅子体験やうまく自分の思いを言語化できないもどかしさの体験をしてもらう。

- ・イベント等で紙すき体験の場を設ける（年 2 回）。

- ・花苗という作業所のツールを活用し、市内幼・保育園との交流を図り、幼少期から障害者とふれあえる機会を作る。

- ・令和 5 年度から「中山福祉の会」の活動に協力をしている。この活動を通じて地域交流の場が増えてきているので、引き続き協力をしていく。

③ 利用者の健康管理

- ・高齢班だけではなく、全利用者の健康管理を行う為にも月に 1 回「運動クラブ（仮）」を確立し、体力維持の体操等、本人たちにあった活動を考えていく。職員が知識をつける為にも、研修等に参加していく。

④ 利用者支援の強化

- ・週 1 回一人以上の利用者のケース検討会議を行い、1 年で利用者全員の支援を見つめなおす機会を作る。個性ある職員が同じ目的を持って支援を行い、チームとしての意識の向上を図ることで、班の職員である前に作業所の職員という立場である事を全職員、再確認していく。支援者のプロとして自覚し、情報を共有し合い、統一した支援を行える環境を目指していく。

⑤ パン販売（5 年計画）

- ・創作活動や余暇活動から、商品になるパンの製作、マニュアル作成をする
- ・パンの販売を行っている施設へ見学に行く

B. 数値目標

	碧南ふれあい作業所	事業活動収入計
利用定員	60人	
利用者延数	13700人	
1 日平均利用者数	56.0 人	
稼働率、稼働指數*	93.3%	
稼働日数	244日	
障害福祉サービス収入	99,000千円	
職員数（常勤換算）	13.5人	13.5人 サビ管込み 管理者なし

III. 職員について

配置計画

従業者の職種・員数	職種		サービス管理責任者		看護職員		生活支援員		調理員	
	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務
常勤(人)	①	②	2				7			
非常勤(人)	③	④			3		10		2	
当該職種の勤務延べ時間数			320			192.00			2060	170
常勤換算後の人数			2			1.20			12.50	1.2

研修計画

- 事業所内研修

利用者の気持ちを知る研修：車いす体験、盲目体験等、利用者の立場になって体験をすることによって、支援に活かしていく。

虐待防止委員会研修：事業所に設置した委員会メンバーによる虐待を防止するための研修。

利用者のケース会議：利用者一人ひとりの支援を職員話し合う事で共通した支援が行う事が出来るようになる為に毎週行っていく（週1回一人以上）。

- 個別の研修計画 別紙参照

IV. 年間事業（行事）計画

区分	内 容
全体地区行事	わらふえす 碧南地区運動会
地域参加行事	元気ッス！へきなん
事業所行事	社会見学 ハロウィンパーティー クリスマス会 もちつき大会 BBQ大会
保健・医療・衛生管理	利用者健康診断 職員健康診断 インフルエンザ予防接種 歯科検診
職員会議	職員会議（週1回） 身体拘束適正化委員会（月1回） 虐待防止委員会（年4回）
保安防災対策	防災・避難訓練（年4回）

V. 固定資産購入、修繕等

- 送迎バス1台の入れ替え（碧南市予算より購入予定）
- 令和6年度から7年度にかけて館内のエアコンの交換（碧南市予算より購入予定）
- 厨房のステムコンベクション老朽化により入れ替え
- 事務所内の電気配線工事

○施設老朽化の為、隨時修繕の優先順位を考えていく。

資金収支次期当初予算

令和6年4月1日

(単位:円)

勘定科目		当年度予算額	次期予算額	増減
事業活動による収支	0184 障害福祉サービス等事業収入	112,005,000	112,500,000	495,000
	0185 自立支援給付費収入	105,000,000	105,000,000	
	8341 介護給付費収入	105,000,000	105,000,000	
	8352 利用者負担金収入	5,000		△5,000
	8371 特定費用収入	4,400,000	4,500,000	100,000
	0187 その他の事業収入	2,600,000	3,000,000	400,000
	8381 補助金事業収入(公費)	350,000	350,000	
	8382 受託事業収入(公費)	2,250,000	2,650,000	400,000
	0195 その他の事業収入	6,200,000	6,200,000	
	0196 その他の事業収入	6,200,000	6,200,000	
	8494 その他の事業収入	6,200,000	6,200,000	
	0200 受取利息配当金収入	7,000		△7,000
	8541 受取利息配当金収入	7,000		△7,000
	0201 その他の収入	1,240,000	1,190,000	△50,000
	8611 受入研修費収入	40,000	40,000	
	8612 利用者等外給食費収入	600,000	650,000	50,000
	8613 雑収入	600,000	500,000	△100,000
	事業活動収入計(1)	119,452,000	119,890,000	438,000
事業活動による支出	0129 人件費支出	80,100,000	86,100,000	6,000,000
	7112 職員給料支出	32,500,000	33,500,000	1,000,000
	7113 職員賞与支出	7,700,000	9,100,000	1,400,000
	7114 非常勤職員給与支出	28,500,000	31,000,000	2,500,000
	7116 退職給付支出	1,400,000	1,500,000	100,000
	7117 法定福利費支出	10,000,000	11,000,000	1,000,000
	0130 事業費支出	26,225,000	25,355,000	△870,000
	7211 給食費支出	5,900,000	5,700,000	△200,000
	7215 保健衛生費支出	1,700,000	1,700,000	
	7217 被服費支出	20,000	20,000	
	7218 教養娯楽費支出	600,000	600,000	
	7219 日用品費支出	160,000	150,000	△10,000
	7222 本人支給金支出	5,400,000	5,300,000	△100,000
	7223 水道光熱費支出	5,300,000	5,100,000	△200,000
	7225 消耗器具備品費支出	1,000,000	800,000	△200,000
	7226 保険料支出	75,000	75,000	
	7227 賃借料支出	210,000	200,000	△10,000
	7228 教育指導費支出	1,900,000	1,900,000	
	7231 葬祭費支出	350,000	200,000	△150,000
	7232 車輌費支出	3,600,000	3,600,000	
	7235 雑支出	10,000	10,000	
	0131 事務費支出	10,220,000	10,370,000	150,000
	7311 福利厚生費支出	300,000	450,000	150,000
	7312 職員被服費支出	10,000	10,000	
	7313 旅費交通費支出	40,000	40,000	
	7314 研修研究費支出	600,000	600,000	
	7315 事務消耗品費支出	1,300,000	1,200,000	△100,000
	7316 印刷製本費支出	300,000	300,000	
	7319 修繕費支出	900,000	1,000,000	100,000
	7321 通信運搬費支出	250,000	250,000	
	7323 広報費支出	30,000	30,000	
	7324 業務委託費支出	3,700,000	3,700,000	
	7325 手数料支出	50,000	50,000	

事業・拠点 [0404:碧南ふれあい作業所]

資 金 収 支 次 期 当 初 予 算

令和 6年 4月 1日

(単位：円)

勘 定 科 目		当年度予算額	次期予算額	増 減
7326 保険料支出 7327 貸借料支出 7328 土地・建物賃借料支出 7329 租税公課支出 7331 保守料支出 7332 渉外費支出 7333 諸会費支出 7335 雜支出 事業活動支出計(2) 事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	750,000	750,000		
	800,000	800,000		
	120,000	120,000		
	100,000	100,000		
	800,000	800,000		
	10,000	10,000		
	150,000	150,000		
	10,000	10,000		
	116,545,000	121,825,000	5,280,000	
	2,907,000	△1,935,000	△4,842,000	
施設整備等による収支 収入 支 出 施設整備等収入計(4)				
	0144 固定資産取得支出 7524 器具及び備品取得支出		2,500,000 2,500,000	2,500,000 2,500,000
	施設整備等支出計(5)		2,500,000	2,500,000
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△2,500,000	△2,500,000
その他の活動による収支 収入 支 出 0214 積立資産取崩収入 8853 その他の積立資産取崩収入 その他の活動収入計(7)	0214 積立資産取崩収入 8853 その他の積立資産取崩収入		5,000,000 5,000,000	5,000,000 5,000,000
	その他の活動収入計(7)		5,000,000	5,000,000
	0160 拠点区分間繰入金支出 7672 拠点区分間繰入金支出	11,000,000 11,000,000		△11,000,000 △11,000,000
	その他の活動支出計(8)	11,000,000		△11,000,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△11,000,000	5,000,000	16,000,000
	予備費支出(10)	907,000	565,000	△342,000
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△9,000,000		9,000,000
前期末支払資金残高(12)		9,000,000		△9,000,000
当期末支払資金残高(11)+(12)				

碧南ふれあい作業所 事業所紹介

碧南ふれあい作業所は、「働く生活介護」が魅力の一つであります。生活介護の中においても、作業に特化している所が特徴で社会人として毎日仕事をしながら、生活介護としての良さである、季節に応じた行事も行っています。仕事と余暇のメリハリのある生活を目指しています。

日中の活動について

ふれあい作業所では療育・身体・精神の手帳を持っている方を対象に様々な作業や行事を行っています。作業は自主製品班・農園班・下請け班・ステップ班（療育班）・ピース班（高齢班）の5つに分かれ、それぞれのスケジュールに沿って毎日活動を行っています。作業内容は様々で利用者の方1人1人に合ったものを提案できるように心がけています。また、高齢班（ピース班）の方には、今までつちかってきた経験を尊重し、作業以外に余暇活動を充実させることで生きがいを見つけられるものにしていきたいと思っています。

ご本人・家族の方とは年度末に面談を行い、次年度の目標を立てています。本人主体の目標を立て、本人のやる気を引き出すような支援を行っています。また、各班で外出等の企画も行っています。

【自主製品班】所属人数 21名

活動内容 紙すき製品、名刺印刷、アクリルたわし、編みぐるみ 等

●特 徴●

作業所では葉書・色紙・封筒・名刺などの紙すき製品は、すべて牛乳パックを再利用して作っています。作業所の紙すきはとても評判がよく、全国から注文を頂いています。紙すきは作業工程も多く、天候などによっても左右されてしまうため大量生産はできませんが、1つ1つ丁寧に作っています。紙すき以外にもアクリルたわしや編みぐるみなどを作って販売しています。また名刺や年賀状の注文も受けております。





【下請班】所属人数 20名

活動内容 自動車部品の加工、手袋の成型 等

●特 徵●

下請け班では自動車部品の加工や、手袋の成型作業を行っています。利用者の方は職員以上に作業に慣れているため量が多くても納品までにきちんと作業をおえることができています。工場から作業を頂いているため社会情勢に左右されやすく、作業がない日もあります。そのような時は散歩や自立支援課題などを取り入れて一人一人の特性に合った活動を取り入れています。





【農園班】所属人数 14名

活動内容 花苗栽培、市内花壇植替え、アルミ缶リサイクル、
EMボカシ 等

●特徴●

農園班は、花苗を種から栽培して販売したり、市内の公園や公的機関などの花壇の管理や植え替え、また近隣の幼・保育園等にも配布しています。花が好きな利用者が多い為、みんなで大事に花を育てています。農園は屋外での作業が中心のため利用者の方の健康管理には十分配慮しながら活動しています。特に真夏は屋外での作業ができるだけ減らし、水遊びや室内で工作などをして過ごすようにしています。





【ステップ班&ピース班】 所属人数 4名

活動内容 工作、外出、各班の作業補助 等

●特徴●

ステップ班は、毎日作業に取り組むことが難しい方達が自立支援課題や工作・調理実習、夏場にはプールを行ったり、散歩に出かけたりして過ごしています。また、今年からアイディア C 体操協会の方に来てもらい、椅子に座りながらでもできる運動を行って機能維持運動を行っています。療育的な活動が中心ですが、作業を行うこともありメリハリのある生活ができるようにしています。また高齢となった利用者に喫茶活動や余暇活動を提供するピース班の活動を昨年から始動しています。



行事&創作活動について

毎月、季節に応じたイベントを企画しています。4月は歓迎式、5月は社会見学、運動会、6月はバーベキュー大会、7月は元気ッス碧南、8月はわんこそうめん大会、10月はハロウィンパーティー、11月はわらフェス（旧ふれあい祭り）、大掃除、12月はクリスマス会、1月はもちつき大会を企画して利用者の方にリフレッシュをかねて楽しんでもらっています。また、バレンタインデー、ホワイトデーなどの創作活動も行っております。





運動プログラムについて

今年度から始めたプログラムで、健康維持を目的に毎月2回に分けて、運動プログラムを行っています。ボッチャやボーリングなどを企画し楽しく体を動かしてもらっています。



スタッフ会議について

毎月1回、利用者と職員が集まり作業所のことについて話し合いをしています。行事について話し合うことがほとんどですが、利用者の方の意見や希望を聞くいい機会にもなっています。特に創作活動で何を作りたいか、式典やイベントでの役割を決める時などはみんな積極的に発言をしてくれています。自分達の意見が反映されることによってやりがいやいい施設作りに繋がっていくと考えています。

厨房について

作業所の利用者数名が厨房内の洗い物や調理補助を行っています。同法人の就労系事業所「ふれあい工房アルゴ」からも利用者の方が来られ、盛り付けや配膳、翌日の仕込みを手伝っています。また包丁を使っての調理や味付けも利用者の方に行ってもらい、本人のやる気を高められるような支援を行っています。厨房に入るということで衛生面には十分気を付けており、手洗いや消毒は特に徹底して行っています



日中一時支援について

毎月第3土曜日に行っており、利用者に楽しんで頂ける企画を提供しております。今年度4月堀内公園、5月カップゼリー作り、6月生命と海の科学館、7月カラオケを企画し沢山の方に参加して頂きました。

地域交流について

- ・紙漉き…わらふえすのワークショップにて紙すき体験を地域の方に向けて行いました。また、毎年12月と1月にひいらぎ特別支援学校の生徒に紙すきを体験してもらう為に利用者と一緒に訪問し、紙すきを通じて交流しています。
- ・花苗…市内の学校と花苗を通じて交流をしています。昨年は、市内の保育園に農園で育てたミニトマトをプレゼントしたり、ゴーヤの苗を植えに行ったりしました。市内の中学には、生徒さんと作業所の利用者で花苗を植えました。市内の幼稚園には、12月にチューリップの球根をプレゼントしに行きました。西尾特別支援学校の生徒さんとも一緒に種からマリーゴールドを育てています。